

# 令和6年度 千葉県における「ほんびのすがい東京湾海域」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

## （１）千葉県東京湾海域におけるホンビノスガイの漁業実態

ホンビノスガイは北米原産の国外外来種であり、国内には船舶のバラスト水により移入し、東京湾では、平成19年(2007年)頃から漁獲対象となっている。主に小型機船底びき網漁業や貝まき漁業で漁獲されており、近年は、東京湾内湾海域の重要な資源となっている。

## （２）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

### ①目標（千葉県資源管理方針に定める資源管理の方向性）

当面の間、年間漁獲量を直近5年間（平成28年(2016)から令和2年(2020)まで）の平均値（2,046トン・県内主要港）程度に維持し、資源の持続的な利用を図る。

### ②該当する資源管理協定

「ほんびのすがい東京湾海域」に係る資源管理協定（以下、協定という。）は、下表のとおりで、3漁協所属の約40名が、ホンビノスガイを対象とした、それぞれの協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは、1協定となっている。

協定	備考	協定	備考
市川市		新富津	
船橋市	◎		

#### ◎ 本検証の対象協定

### ③自主的取組

東京湾内湾の小型機船底びき網漁業では、関係漁業者により、内湾底びき網連絡協議会が組織されており、資源管理の取組は当該協議会で協議決定の上、実践している。（取組一覧は、下表のとおり）

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考
小型機船底びき網 漁業	◎休漁日の設定	定期休漁（火・土曜日） ※ただし、市場の臨時開場日前日は出漁することが出来る。	
	◎操業時間の制限、 漁具の制限等	現場投網から網揚げまで8時間30分、桁の幅3m以内、網の目合2寸5分以上、3cm以上を採捕可能	

#### ◎ 協定に記載されている取組

上記取組の他、資源状況等に合わせて内湾底びき網連絡協議会で協議決定した、年末年始お盆期間の休漁や、ホンビノス稚貝を捕食するツメタガイの駆除活動を行っている。

### (3) 資源管理の効果の検証

千葉県東京湾海域の内湾2漁協のホンビノスガイ漁獲量は、2007年は159トンであったが、その後増加し、2014年には1,091トンに達した。さらに2015年に2,013トンに急増し、2017年には2,646トンとピークに達した。その後減少し、2023年は419トンとなった。県の令和6年(2024)度資源評価では、現在は低位減少となっている(図1)。協定参加者による検証(以下、「自己点検」という。)では、漁獲量とCPUE(単位努力量あたり漁獲量)は減少と判断しており、資源評価の結果と一致している。また、魚価(単価)は上昇と判断している。

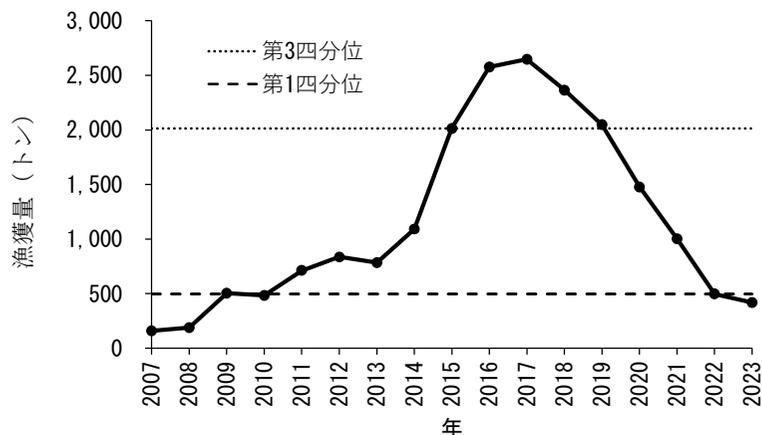


図1 内湾主要漁協におけるホンビノスガイ漁獲量の経年変化

(千葉県調べ)

### (4) 効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

ホンビノスガイは国外外来種であることから、積極的な増殖を行うことはできず、発生した資源の有効利用を検討することとなる。現在、内湾底びき網連絡協議会や関係漁業者による検討会を通じる等して、操業時間の制限、休漁日の設定、漁獲サイズ制限といった、様々な取組が実施されているとともに、有効利用に向けた取組の検討がなされている。東京湾内湾は貧酸素水塊等の環境要因が漁業に大きく影響する海域であり、資源減少の要因について、自己点検では、環境要因及び一時的な高い漁獲圧が影響した可能性があるとしており、県では、台風による一時的な大量出水、青潮、漁獲圧の増加といった要因が複合的に影響している可能性があるとして推定している。

このため、資源の有効利用を図るためには、現在の取組を継続していくとともに、今後の海洋環境の変化や資源状況を注視し、状況に応じた対応を検討していくことが重要と考えられる。